

人と人、人と自然のつながりを学び、 主体的に環境に関わる東っ子

身近な自然環境である葉山川での環境学習を基点に、地域の自然や人を愛し、みんなが幸せに生活するために、環境に配慮した暮らしや行動の仕方について考え、主体的に環境に関わろうとする子どもをめざす。

1 学校の概要

本校は、京阪神のベッドタウンとして人口が急増している草津市に位置する。

平成17年度よりエコ・スクールの実践校の指定を受け、校区に流れる葉山川を中心とした環境学習を重ねてきた。平成19年には淡海こどもエコクラブ大賞を受賞し、近年はFBC（フラワーブラボーコンクール）にも毎年参加し、自然や生き物とのふれあいを体験する学習を積み重ねてきている。また、平成24年度から3年間「しが環境教育リーディング事業」の指定を受け、環境学習に重点を置き、地域の方々と共に取り組んだ。また、平成25年には環境省より環境保全功労者表彰を受けた。

2 「エコ・スクール笠縫東」の取組

(1) 環境への関心と地域への愛着

社会では、地球温暖化、水質汚濁など、様々な環境問題がメディアに取り上げられている。

それらの問題は何か一つを変えれば解決するような問題ではなく、様々な立場の人と協力しながら少しずつ解決していかなければならない問題である。一人ひとりが自分勝手な考えを改め、相手の立場に立って行動したり、将来を見据えて行動したりする事が大切である。

本校が進める環境学習のねらいは、人と人、人と自然のつながりを学び、学ぶ楽しさを知る中で、

環境への関心や地域への愛着を深め、身近な環境に対して主体的に関わろうとする力や態度を育むことにある。

(2) エコ・スクールは、地域とのつながりによって支えられている

本校の「環境学習」は「自然環境」という意味だけでなく、「地域・人」も含め、「自然・地域・人」を広い意味での「環境」ととらえている。

一年間を通して、地域の方々にお世話になりながら地域の川である「葉山川」を基点に、全学年が、生活科・総合的な学習の時間を中心に環境学習（葉山川学習）に取り組んでいる。大人も子どもも楽しく集いながら環境学習を進めており、この学びの過程において、子どもたちと地域の人々との「つながり」を特に重要視している。

また、地域には、子どもの学習をサポートする地域の力「地域協働合校推進協議会」があり、特に、エコ・スクールについては「エコ・スクール支援委員会」を年2回開き、学校と地域とが連携して学習を進めるだけでなく、地域の取組内容や、昔の地域の様子などたくさんの方の事を教えていただいている。このように地域との二人三脚により、本校の環境学習は進められている。



H29年度 第1回目エコ・スクール支援委員会の様子

(3) 6年間を通した取組

低学年では生活科で、地域の方の協力を得ながら川沿いにある草花や生き物に親しみ、葉や実を使ってどんな遊びができるのか遊びを通して学んでいる。2年生になると、どんなところにどんな草花が生えているのか、手ざわりやにおい、形はどうか、生き物はどんな生活をしているのかなど、特徴を捉えながら身の回りの生命に触れている。

3年生では、理科の学習と併せながら植物チームと虫チームに分かれ、年間を通して生き物探しに出かけた。地域の方に詳しい特徴について教えてもらいながら観察をしたり、夏と秋の様子の違いを比べながら観察したりすることで、葉山川の生き物についてより詳しく学ぶことができた。



3年生 植物チームの観察

4年生では、「葉山川の歴史をさぐる」と称し、『葉山川はなぜ洪水が起こらなくなったのか』を課題に、地域の方から昔の葉山川の様子や人々の暮らしについてお話を聞いたり、実際に昔の旧葉山川の跡地や遺跡をまわったりしながら学習を進め、昔の人々の葉山川への思いや、葉山川の氾濫による人々の苦勞などを知ることができた。



4年 旧葉山川の跡地めぐり

高学年になり、5年生では、地域の方々の協力を得ながら、環境こだわり米の田植えを行った。田んぼの稲の生育の様子を観察した際には、葉山川と田んぼの水を採取してプランクトン観察も行った。また、葉山川は琵琶湖とつながっていることを確認した上で、琵琶湖の環境について、生き物、歴史、地形、環境問題について調べ、自分たちにできることを考えた。これらの学習の後のびわ湖フローティングスクールは、子どもたちにとって、とても深い学びとなった。



5年生 環境こだわり米の田植え

6年生では、葉山川学習の総仕上げとして、「私たちの葉山川学習（楽集）」と称し、これまでの1年生からの活動を振り返った。

また、地域の環境保全活動に関わっておられる方々9名をゲストティーチャーとして招き、それぞれから活動内容や活動を始めたきっかけ、活動への思いなどを聞かせていただいた。話を聞かせていく中で、子どもたちは『自分たちは地域の多くの方々に守られて生活している』や『あたりま

えのように感じている地域の環境は、こういった活動をされている方々をはじめ、多くの地域の方々によって守られている』ということを実感することができた。また、どの方の話にも、『自分にできることをしていることが地域の環境保全につながっている』という共通性があり、身近な環境を守ることは、決して難しいことではなく、自分にできることは何かを考え、実際に行動に移していくことが大切なのだということを学んだ。

そして、一人ひとりが、今までの自分を振り返り、これから自分にどのようなことができるか考え発表し合った。また、失敗や苦勞から学んだり、工夫が生まれたりしてくるということも教えていただき、人生の先輩として自分の生き方の参考となることもたくさん学ぶことができた。



6年 地域の環境保全活動に携わる方から話を聞く

(4) 委員会での取組

本校には「エコロジー委員会」があり、委員会活動においても環境活動を進めている。昨年度は地域の方の協力を得ながら、校庭に植えられている木々の名前を全て調べ、プレートを作りそれぞれの木に取り付ける作業をすると共に、校庭の樹木マップを作った。今年度は、この樹木マップをもとに『校庭の樹木スタンプラリー』を行い、ピックアップしたいくつかの樹木の特徴を説明しながらクイズを出すスタンプラリーを提供し、全校のみんなに校庭の樹木について知ってもらうことができた。



校庭の樹木スタンプラリー

また、1月には昨年度と同じように地域の方に手伝っていただいて、葉山川に入ってごみ拾いをし、拾ったごみを分別する活動を行った。子どもたちは、自然に戻らないごみがこんなにも捨てられていることに改めて驚いていた。また、きちんと分別すれば再利用できるごみも、このような捨て方をしてしまうと再利用できないことを教えていただいた。これらの様子は、給食の時間に写真を見せながら放送で紹介することで、全校のみんなに知らせることができた。



葉山川の清掃の様子

3 ふるさと葉山川博物館での学芸員タイム

毎年地域で開催されている学区民のふれあい祭りの日に「ふるさと葉山川博物館」を開館している。多くの来館者があり、一方的に展示するのではなく、子どもたちが「こども学芸員」として展示物の前に立ち、双方向のやり取りを意識しながら1年間の葉山川学習で学んだことを工夫を凝らしながら発表している。子どもたちと地域の人々との交流するだけでなく、子どもたちは、自分の言葉でふるさとの自然について語るができ、自らどのように関わっていきたいかを考える機会にもなっている。



ふるさと葉山川博物館での子ども学芸員たち

4 発表の場を設ける

ふるさと葉山川博物館だけでなく、草津市で行われた「草津市こども環境会議」に、今年度も多くのグループが参加し、葉山川学習で学んだことを参加者のみなさんに発表することができた。こうした取組の中で、学習したものがより自分のものとなり、自分の思いや考えを伝える力がついていくものと考えられる。



草津市こども環境会議での発表の様子

5 おわりに

葉山川学習で出会った地域の人々とのつながりを通して、子どもたちは葉山川周辺の自然だけでなく、人との関わり方や身近な環境から大切にしていこうことの重要性を学んでいる。地域の自然をテーマにした環境学習は、持続可能な地域づくりであり、町づくりである。子どもたちがそこから学ぶ楽しさを知り、地域の人と楽しく集う関係をつくりながら、自分の住む町に愛着や誇りをもつとともに、主体的に環境や周りの人々に働きかけていく力を身に付けていくことこそがその第一歩である。今日まで築いてきた地域の方々とのつながりを今後も大切にし、自分から地域の環境に働きかけていける子どもを育てていきたい。

学校名： 草津市立笠縫東小学校

住所： 草津市平井3丁目8-1

電話番号： 077-564-4391

E-mail: info@kasanuihigashi-p.sk.ed.jp